

研究データ管理サービス  
**GakuNin RDM**

オープンベータ・テスト開催中

2018年夏から2020年まで、研究データ管理サービス GakuNin RDM をお試しいただけるオープンベータ・テストをロングランで実施しています。ぜひこの機会に GakuNin RDM をお試しください。

- 簡便な操作で研究データの管理や保存が可能
- 研究プロジェクトの俯瞰に有用
- 研究証跡の保全でリスク回避に最適

管理ユーザ

学術機関の情報基盤センター、データセンター、図書館において、システム導入業務、研究開発業務または研究支援業務に携わる教職員を対象とします。

エンドユーザ

主に学術機関で研究プロジェクトを推進されている教職員、研究者、学生を対象とします。

皆様からのご意見、ご要望を集約し検討の上、研究データ管理サービスの改善に活用します。

これまでにクローズドアルファ・テストを3回実施し、多くの大学や研究機関にご利用いただいています。

参加申込、お問合せは、下記までご連絡ください。

研究データ管理について学ぶ

オンライン講座を提供

研究データ管理は、オープンサイエンスの推進に不可欠な基礎的スキルであり、その理解促進と、それを支援する人材の育成が急務となっています。RCOS では、研究データ管理について学べるオンライン教材の開発と提供を行っています。

第1弾 (2017年11月～2018年1月)

「オープンサイエンス時代の研究データ管理」

研究データ管理に関する基礎的な知識を獲得し、各機関の実情に適したサービスを構築する際の足掛かりを得るための講座です。

アーカイブは、以下でご覧いただけます。  
<https://www.nii.ac.jp/service/jmooc/rdm/>

第2弾 (2019年提供予定)

「研究データ管理サービスの設計と実践」

研究支援スタッフが、研究プロセス（研究前、研究中、研究後）に沿って、研究データ管理サービスの設計と実践について学べる講座です。

今後も、研究者、ライブラリアン、ICT支援スタッフ、リサーチ・アドミニストレーター等のコミュニティと連携しながら、研究データ管理を学ぶための講座の開発とその普及を進めていきます。

新しい研究スタイルを  
最先端技術でサポート

RCOS

オープンサイエンス  
基盤研究センター

Research Center for Open Science and Data Platform

国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター (RCOS)は、世界的なオープンサイエンスへの期待の高まりを、全ての研究者の経験とするための「研究データ基盤」を整備することを目的に設置されました。

学術論文のオープンアクセスに加えて、研究データもインターネット上で公開していくことは、研究者の責務となりつつあります。

アカデミアに加えて広く社会とも研究成果を共有することで、研究の加速化、学際領域研究や社会における問題解決、イノベーションの創出、産業への貢献につなげようとする狙いがあります。研究公正の観点からも研究データの公開は推奨されています。RCOSは、科学の新しいスタイルとなるオープンサイエンスを、基盤の立場から支えます。

RCOS

国立情報学研究所  
オープンサイエンス基盤研究センター

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

e-mail [rcos-office@nii.ac.jp](mailto:rcos-office@nii.ac.jp)

web <https://rcos.nii.ac.jp/>



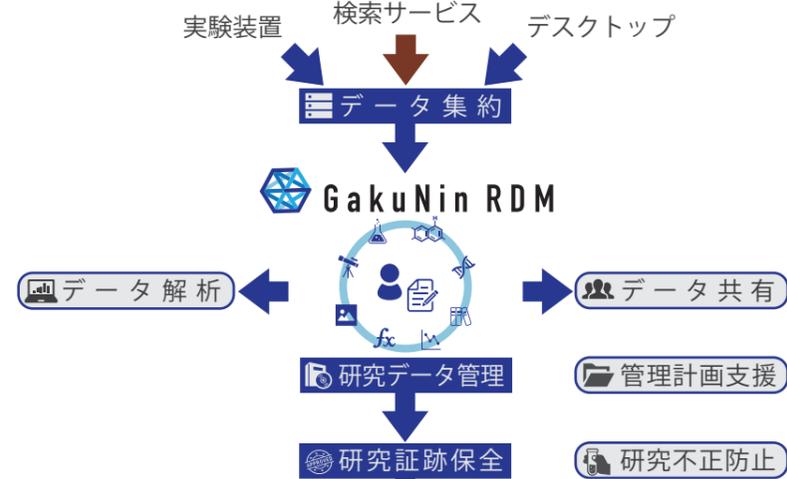
# オープンサイエンス推進のための研究データ基盤

管理する

## GakuNin RDM

### 公正かつ柔軟な研究データの管理

管理基盤 (GakuNin RDM) は、個人の研究者が研究プロジェクトにおいて、研究データや論文ファイルを簡単に管理、共有できるクラウドサービスです。ファイルのプレビュー機能やバージョン管理、メンバー内でのアクセス制御、デスクトップとの同期機能などを基本機能として備えます。研究でよく利用される外部ツールとの連携や、研究公正への対応としての研究証跡を記録する機能など、日々の研究データ管理に必要とされる機能を順次拡充しています。組織が提供するストレージと接続して利用することで、各大学におけるデータポリシーやセキュリティポリシーに沿った研究データの管理が、負担なく実現できます。



GakuNin RDM では、研究者が日々の研究活動で検索する先行研究の論文や関連する研究データ、自身の研究の実験装置、センサーや計算機などから観測・生成される研究データをサービスが集約し、一元的に管理できます。全ての研究データの入出力や操作をログとして記録し、研究証跡を保全することで研究不正を防止します。また、研究データのバージョン管理機能や多彩なプレビュー機能は、共同研究でのデータ共有に有効です。データ解析ソフトウェアなどの外部サービスと連携して利用することで、実験と理論の研究者が協働の場としても活用できます。

公開する

## WEKO3

### 世界に向けた研究データの発信

公開基盤 (WEKO3) は、研究者が公開すると判断した研究データや研究論文などの研究成果を公開するための次世代リポジトリシステムです。管理基盤と連携することで、簡単な操作により研究者自身で研究成果を公開でき、オープンサイエンスの世界に参加することができます。論文の書誌情報や研究データの説明に関わるメタデータ項目の設定機能、カスタマイズ可能なワークフロー機能、永続的識別子の付与機能など、リポジトリの運用において必要とされる機能を備えています。WEKO3 は、機関リポジトリのクラウドサービス JAIRO Cloud を通して、最先端のリポジトリ機能を国内の大学や研究機関に提供します。



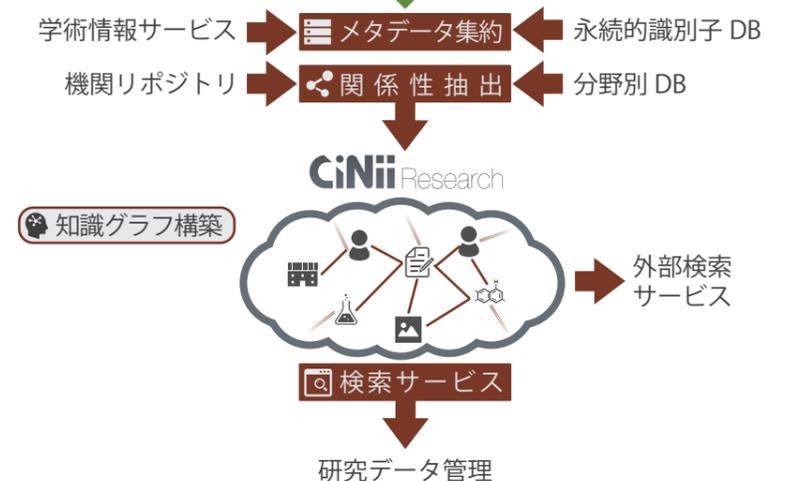
WEKO3 では、研究データ・研究論文等の研究成果を公開するために、機関や研究分野の特性に対応した研究成果の保存・管理・公開を実現します。論文や紀要だけでなく、研究データなどにも DOI を付与することができます。バージョン管理機能により、アップデートされるコンテンツにも適切なアクセス手段を提供します。強化したワークフロー機能は、機関ごとの異なる運用方針や学内システム連携への柔軟な対応を可能にします。コレクション機能を活用して、学内の複数のリポジトリやデータベースを、1つにまとめて運用することも簡単にできます。

検索する

## CiNii Research

### 知のつながりによる研究データの発見

検索基盤 (CiNii Research) は、公開基盤や他のデータベースで公開された研究データとその関連情報を、横断的に検索するための次世代検索サービスです。研究データから得られた成果である学术论文や図書、それらの成果を生み出した研究者や研究プロジェクトなどの関係性を表現する、大規模学術知識グラフの構築をコア機能として備えています。知識グラフをよりリッチにすることで、研究者のニーズに合わせた多彩な情報探索空間を提供することができます。CiNii Research は、研究活動に不可欠となる研究データや文献の発見だけでなく、新たな研究テーマの着想や実施をサポートするサービスへと進化します。



CiNii Research では、研究活動を表現する多様なメタデータを集約します。その対象としては、CiNii や KAKEN といった学術情報サービスに加え、WEKO3 をはじめとする大学等の機関リポジトリ、JaLC や ORCID といった永続的識別子のデータベース、分野毎の研究データベースなどがあります。集約したメタデータから論文や研究データ、研究者、研究プロジェクトの関係を抽出して知識グラフを構築します。ある論文で使われた研究データを探したい場合にも、シンプルなユーザーインターフェースから、必要な情報を的確に得ることができます。